

=====

RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE
2020.09.07

=====

こんにちは。立教大学ボランティアセンターメールマガジン9月7日号です。

夏休みもあと約2週間になりましたが、みなさんはどんな夏を過ごしていますか？

学生の本業は学業などと言われますが、学生時代に経験する学業以外の学びも、同じぐら
いみなさんという「人間」を形成していく上で極めて重要となるものだと考えます。しかし、
忙しかった授業の日々から少し離れ、様々な物事に会えるチャンスを奪われてしまった今
年は、なかなか思い描くキャンパスライフを送ることができずに、不安な気持ちでいる人も
多いかもしれません。同じように、私たちボランティアセンターのスタッフも、課外活動と
しての様々なボランティアの紹介を中止せざるを得なくなり、このような状態をとっても残
念に思い、みなさんの繋がり場の一つとして、この夏 **Online Volu-Café** を開催しました。

前号のメルマガに続き、今号でも後程詳しい内容をご紹介しますが、今後も継続的に開催
する予定です。キャンパスに入れない状況の中でも、オンラインで同世代のみなさんの交流
の輪を広げる場を作ることができればと願っています。



CONTENTS

- (1) ボランティアセンターからのお知らせ
- (2) 第2回 Online Volu-Café ご報告
- (3) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

=====

- (1) ボランティアセンターからのお知らせ

=====

【夏のボランティア活動について】(再掲)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在ボランティアの紹介・広報活動を中止しております。また、本学学生ボランティアサークルのボランティア活動も本学課外活動の基準に沿った対応を取ることになっています。

個人の責任においてボランティア活動に参加する場合は、いま行なうことが本当に必要かどうかを慎重に検討し、自己責任の上行動してください。その上で活動をする場合も、活動先が各自治体等で示している活動再開指針を遵守しているかどうかを必ず確認した上で参加するようにしてください。

首都圏の感染者が多数いる地域からいろいろな場所へ人が行くことが持つ危険性について、十分に考えた上で慎重に判断してください。

以上について、不明な点や活動についての相談があれば、遠慮なくボランティアセンターまでお問い合わせください。

メール： volunteer@rikkyo.ac.jp

電話： 03-3985-4651

【Online Volu-café 参加者からの声】

Online ポラカフェ 第1回
何か一歩踏み出したい、大学生活を充実させたい。
立教生と繋がりたい。
そんなあなたの“きっかけ”に・・・

様々な経験から感じた事
悩み・葛藤
Guest
・観光学部 4年生
・コミュニティ福祉学部 3年生
(学習支援・農業体験などに参加した先輩です！)

人との繋がりがから学んだこと

先輩から大学生生活の話が聞けます！質問も可能！

日時 8/7(金) 12:30～13:15
ZOOM 双方向・座談会形式
参加方法 立教時間からお申し込みください
締め切り8/5(水)17時
定員10名 ※先着順
(参加者には前日にURLをお送りします)

主催：立教大学ボランティアセンター ☎ volunteer@rikkyo.ac.jp

Online ポラカフェ 第2回
何か一歩踏み出したい、大学生活を充実させたい。
立教生と繋がりたい。
そんなあなたの“きっかけ”に・・・

気仙沼、高島
「現場」で学んだこと、
出会った人
悩み・葛藤
Guest
・社会学部 3年生
・現代心理学部 4年生
(優良支援サークル・東進ボランティア、
高島農業体験に参加した学生です)

人との繋がりがから学んだこと

先輩から大学生生活の話が聞けます！質問も可能！

日時 9/1(火) 12:30～13:15
ZOOM 双方向・座談会形式
参加方法 立教時間からお申し込みください
締め切り8/31(月)正午
定員10名 ※先着順
(参加者には前日にURLをお送りします)

主催：立教大学ボランティアセンター ☎ volunteer@rikkyo.ac.jp

8月・9月に合計2回、Online Volu-caféを開催しました。夏休み中ということもあり、どちらの回も、時間を延長して大いに話が弾み、好評を博した座談会となりました。

参加者のみなさんからいただいた声の一部をご紹介します。

「実際に先輩の体験談を聞くことができ、紙面だけでは分からない活動内容や雰囲気を
感じられる良い機会になりました。積極的にボランティアセンターを活用したいと思います。」

「モヤモヤの解決策をピンポイントで教えていただけました。」

「今の中に疑問に思ったことを書き留め、キャンパスが再開したら、考えていたことを行動に移して多くの体験をしていきたいです。」

次回開催は、日程調整中です。決まり次第、立教時間、twitter、Instagramでお知らせします。参加を迷っていたという方も、次回はぜひ一度覗いてみてください。初めての方も、リピーターの方も、お待ちしております！



立教大学ボランティアセンターでは、今後の取り組みをよりよいものにしていくために、本センターに対するご意見・ご感想・ご要望を募集しています。

「こんな話が聞いてみたい。」

「こんなイベントがあったらいいな。」

「メルマガで、こんなテーマを取り上げて欲しい。」

など、ボランティアセンターに対するご意見やご感想、ご要望、メッセージなどがございましたら、ぜひお聞かせください。現在、ボランティア活動は制限されていますが、このような状況だからこそ求められていること・できることをみなさんと一緒に創っていきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

アンケートの回答はこちらからお願いします。 ☆:*.° ☆:*.° ☆:*.°



<https://forms.gle/81jZZjUMJi6hXAdq6>

(2) 第2回 Online Volu-cafe ご報告

第2回 Online Volu-Caféは9月1日(火)、ゲスト学生2名と、1年生2名、2年生・3年生各1名、コーディネーター2名による座談会形式で行われました。

以下、概要をご紹介します。

自己紹介

Yさん(ゲスト)：

サークルや団体には所属しておらず、夏・春の長期休暇に単発ボランティアを行った。

- ・1年夏：清里環境ボランティアキャンプ
- ・2年夏：高島農業体験
- ・2年春：陸前高田市での町おこしボランティア1週間（立教大学とは別の団体）

<清里環境ボランティアキャンプ>

立教学院の小中高生、大学生が山梨県清里へ行き、山の整備など環境ボランティアをみんなで行う。小学生が多く、まとめるのは大変だったが、子どもたちの日記帳へのコメントを書くこともあり、小学生が純粋でとても楽しかった。

<高島農業体験>

山形県高島町での農業体験。有機農業を営む農家の方たちにお世話になりつつ、農業や食な

どに対する理解を深めるプログラム。稲刈りや、薫づくりなど。自然が豊かだった。

Sさん (ゲスト) :

大学のサークル (Frontiers : 東日本大震災復興支援ボランティアサークル) に所属し、ボランティア活動を行っている。このサークルは人とのつながりを大切にしており、宮城県の気仙沼市、唐桑町でずっと活動してきている。年に2回、夏と春に現地に行き震災当時の話を聞く活動をしていて、最近ではその話をもとにブログを書き発信活動をしている。

コーディネーターから、Yさんに質問

あえてサークル・団体に所属しなかった理由は？

Y : 1本の映画をきっかけに、大学では映像の勉強をすることを決意したが、知識が追いつかず授業についていけなくなった。そのため、勉強時間の確保、自分の時間を大切にしようと考え、サークルには入らなかった。しかし、せっかく大学に入ったのに勉強だけではもったいない。日本の大学の良いところは勉強も課外活動も両方できる場所なので、長期休みに単発のボランティアでいろいろな所に行くという関わり方を選んだ。

高畠・清里は環境や農業、食事に興味があり、ボランティアという形で関われるのが魅力的だったので参加。陸前高田は東日本大震災が小学生の時に起こり、日本人として一目被災地を見た方が良いと思い参加をした。

同じ農業体験に行ったことのある参加者より

ちょうど一年前に参加し、懐かしく思い出している。一言では言えないくらい、いろいろなことを学んだ。応募したきっかけは「このまま大学生活をぼんやり過ごしていいのか…」という想いと、「人と関わりたい、人生について学びたい。」という想いから。初めは農業をやりたいという応募理由ではなかったが、人とのつながり・生き方だけでなく、農業や食の大切さなども学ぶことができて、とてもよい体験だった。

コーディネーターから、Yさんに質問

サークル所属を選んだ理由は？ 今後の支援の在り方や、今思っていることなどは？

S : 高校の時は何かしてきたということがなくて、大学に入ったらボランティアをしたいという思いがずっとあった。ボランティアオリエンテーションへの参加や、写真展でFrontiersを知り、「ボランティアをしてみたい。」「被災地に行きたい。」という両方の思いを叶えられるのがこのサークルだと思い、所属を決めた。震災から9年たっても現地で活動しているボランティア団体があることも最初は衝撃的だった。また現地の方と話すことがメイン活動であり、そういうボランティアの形もあるのだなと知った。

現地の方は、「会いに来てくれるだけで良い。」と言ってくれるが、私たちとしては「自分が何かをするより、現地の方から学ぶことが多い。」と感じていて、「本当にボランティアなのか？会いに行くだけで良いのか？」ということがサークルでの問題意識になっている。

今は、現地の方に聞いたお話の発信活動をすることで被災地に還元しているが、もっと何かできないかと考えている。また、今はコロナで被災地に行けないので、活動最大の「会いに

行く」ことが出来ない。サークルとして今後どうしていくかが課題である。

コーディネーターより

悩んだり葛藤したりしている過程も、1つのボランティアの形だと思う。答えは1つではないので、つながりが途絶えることなく続けていってほしい。

参加者からの質問

震災復興のボランティアに興味があり、活動してきた中で印象的だったことなどを、もう少し具体的に聞きたい。

S: 津波は自分の中では遠い存在だったが、米沢商会ビル*という実際に津波が到達した地点のわかるビルの屋上に案内していただき、米沢さんから直接お話を伺うことで、津波を追体験した。風も強く寒くて、「自分だったら生きられるだろうか…」と感じた。当時のお話を伺い追体験をすることによって、自分の事のようになったことが、私の中での大きな変化だった。実際、被災地に行くと、明るい人が多いことにも驚き、TVと現実は全然違うのだなと感じた。

*米沢商会ビル: ビルの屋上の煙突の上のわずかなスペースで津波から生き延びた米沢祐一さんは、津波の恐ろしさを後世に伝えるために、体験を語り継ぐ活動を続けている。

Y: 実際に現地に行き風景を見ても、自分はそんなに気持ちが変わらず、淡々と現実として受け止めた。何も気持ちが湧き立たない自分に腹が立ったりもしたが、現地の人にその話をした時、「あなたはそれでもここに来てくれたでしょ。興味があっても足を運んでくれない人もいる。足を運んでくれただけでうれしい。」と言われ、「この想いを受け止めてくれる人もいるのだ。この自分の想いが責められるものではないのだ。」と感じ、そこで印象が大きく変わった。被災者で悲しんでいる人が多いというTV番組が多いが、実際はそれだけではない。現地に行き被災者の方と触れ、自分の想いを発することで、わだかまりが解けることもある。いろいろな想いを持った人たちが陸前高田へ行き、人と話し感じることで自分の中の疑問やわだかまりが解消される。それが陸前高田に行く理由であり、他のボランティアにも繋がることだと思う。もっとも人間にとって基本的なことがそこにはあると思った。

参加者より

被災地だとなおさら先入観があるが、まず現地に行くことで感じる人が多いのだなと思った。

コーディネーターより

どんなボランティアでも先入観はあってもいいと思う。そして現地に行って先入観とのギャップを感じるのが第一歩なのかもしれない。

参加者より

何度も同じ場所や同じ人に会うことも大事だと思うし、いろいろな場所に行くことも大事だと思う。Sさんは1つの場所、Yさんはいろいろな場所。どちらの良さも詳しく聞きたい。

S: 現地の方が、「これからも、ずっと陸前高田に来てほしい。」と言ってくださっている。その理由は、被災地も少しずつ変わってきていて、その変化を感じてほしいからである。場所も人も変化していくことを知ることができるのが、同じ場所に通うことの良さである。何度も行くことで信頼関係も築くことができ、親しくなれる。深く知っていくことができる。

Y: 私の場合は、大学時代はいろいろなことに挑戦したいという気持ちがあった。いろいろなところに行く良さは、様々な人に出会い、様々な考え方を知ることができることである。選択肢の幅が広がり、自分にとってラッキーなことが多い。

参加者より

自分の軸を持ってさえいれば、いろいろな活動に参加することには意味があると思う。いろいろなところへ行き、たくさんの人と出会うことが、大学生として大事だと思う。理想としては、いろいろな人と関わりを持ちつつ、その中で自分が続けたい活動を見つけて続けていけたら良いと思う。

コーディネーターから、参加者に質問

1年生は、何か特定のことをやってみたいと思う？

参加者: ボランティアでは、地域コミュニティの再生や復興支援に興味がある。大学生活では体育会の部活にも入って頑張っていきたいと思っている。

コーディネーターから、Sさんに質問

現地の方と家族のように繋がっていると思うが、やはり被災地へまた行きたいと思う？

S: この状況だからこそ、行きたいと思う。支援という意味もあるが、現地の人の「おかげさまで」といって迎えてくれる、人の温かさを感じられる場所だからこそ、また行きたいと思う。

コーディネーターから、Yさんに質問

(Yさんは現代心理学部だが、) 大学生活の中で体験したたくさんの中から、一つ選んで映像に残すとしたら、どれを選ぶか？

Y: 高島農業体験に参加した時のことを選ぶ。自分の悩みを話した時に、アドバイスとかではなくただ黙って聞いてもらえたことが有り難く、自分の中で何かが変わった気がした。映画にするなら、自分の硬い心が、ふわふわと温かくなっていったような、そんな1コマになると思う。本当によい経験だった。

コーディネーターから、Sさんに質問

現地の方との心からの交流の中で、1番うれしかったことは？

S: 震災当時の話を聞いたり、新たな体験をさせてもらったり、夜みんなで話をしたり…。一つひとつのことがすべてうれしかった。現地の方からもらうことが多く、被災地の方がなぜここまでしてくれるのかと疑問に思った。東京から来ている学生なのか、Frontiersというサークルで繋がりがあからなのか。気になったので、今度直接聞いてみようと思う。

コーディネーターより

大学に入るまでは、自分と共通項のある人たちと繋がるが多かったと思うが、大学生になったら、接点のないところに飛び込んで、これまで交流のなかったような世界や人と繋がっていけるのが魅力。その1つのツールとして、ボランティアという選択肢もあるのだと思う。

(3) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

立教大学では2011年の東日本大震災以降、岩手県陸前高田市を中心に東北各地で復興支援活動や交流活動を継続しています。現在は、陸前高田市ご協力のもと、岩手大学の方々と共に同市の地域課題解決に貢献できるようなプログラムにも取り組んでいます。

陸前高田市と立教大学の歩みを少しずつ振り返りながら、学生の皆さんが陸前高田を訪れることが出来るプログラムやスタッフによる耳ヨリ情報を掲載していきます！

★立教生が生んだ陸前高田市マスコットキャラクター「たかたのゆめちゃん」が暫定3位！

今年で最後となる「ゆるキャラ@グランプリ 2020」に陸前高田市のキャラクター「たかたのゆめちゃん」が参加、現在暫定3位で大健闘しています（先日までは2位だったのです…）。

実は、ゆめちゃんはコミュニティ福祉学部の学生が応募して採用されたキャラクターです。たかたのゆめちゃん、応援してください！！

投票は9月25日（金）までです！

<https://www.yurugp.jp/jp/vote/detail.php?id=00000368>



陸前高田サテライト事務局にいる「たかたのゆめちゃん」たちです♪

★「学生復興支援団体のその後を考えるリモート座談会」を開催しました！

8月27日（木）、陸前高田グローバルキャンパス（岩手大学・立教大学が共同運営する交流活動拠点）が主催し、陸前高田市にかかわりのある学生団体7団体15名が参加するオンライン座談会を開催しました。岩手県、宮城県、埼玉県、東京都、愛知県の大学に通う大学生が参加、立教大学からも Frontiers と Three-S のメンバーが参加しました。

東日本大震災直後、全国の大学で学生による復興支援団体が立ち上がりました。しかし、東日本大震災から9年以上が経過し、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で活動がままならない現在、復興支援団体は岐路を迎えています。そこで、復興支援団体同士がお互いの現状を共有し、これからの活動を考えるヒントを与えあうことを目的として開催しました。

コロナ禍により活動がままならない現在も、陸前高田を初めとする被災地域と繋がり続けたいという気持ちを持ちながら試行錯誤している大学生がたくさんいます！東日本大震災復興支援団体にあなたも参加してみませんか。

■「学生復興支援団体のその後を考えるリモート座談会」

<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/pub/sysnews/sysnewsDetail/?sysnewsPk=21820>

■立教大学 Frontiers

Instagram wearefrontiers

HP <https://rdyshien.blog.fc2.com/>

■立教大学 Three-S

Twitter @Three_S_rikkyo

Instagram rikkyo.threes

HP <https://rikkyo-fukko-shien-koho.jimdofree.com/>

*お問合せ 立教大学陸前高田サテライト事務局 rrs@rikkyo.ac.jp

*陸前高田サテライトの取り組みを発信中

公式 Instagram (@rikkyo_rrs) https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/

（編集：ボランティアコーディネーター／広瀬）

立教大学ボランティアセンター

©池袋キャンパス

場所：5号館1階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

◎新座キャンパス

場所：7号館2階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

※新型コロナウイルス感染拡大のため6月1日以降は短縮開室しております。

月～金 10:30～15:30、土曜日 10:30～12:30

但し、両キャンパスとも原則として入構制限となっています。

また、夏季休業中は、毎週土曜日も閉室となります。

◎ホームページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

◎メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

◎TwitterID @rikkyo_volucen

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

◎Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。

<https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7>

(C)2019 RVC all rights reserved.
